

曹洞宗では、「^{じんけん}人権・^{へいわ}平和・^{かんきょう}環境」の三つを柱として布教活動を行っております。どれも大切なものであることは、みなさん重々承知の事と思います。

特に、平和に関して、日本人は「平和で当たり前」のような感覚を持っているのではないのでしょうか。

平和とは、「戦争と戦争のあいだの期間」と歴史学では定めているようですが、^{かんが}今、世界情勢を鑑みると、様々な場所でテロリズムなどの紛争が行われ、兵器が使われています。そして、当然のこのように、「平和のために」と称して武力を^{こうし}行使しています。それは、独立であったり、土地問題であったり、政治の変革であったりとさまざまですが、人と人が争い殺しあっているのです。

みなさんご存じの『^{けんぽう}日本国憲法』第九条は、平和主義を唱えています。つまり、戦争の^{ほうき}放棄・戦力の^{ふほじ}不保持・^{こうせんけん}交戦権の^{ひにん}否認などです。この件に関しては様々な政治的議論がありますが、基本的に現在まで変化をしておりません。これから先、日本国憲法がどのように変化するかしないかは誰も分かりません。

しかし、^{ろうにやくなんによ}老若男女を問わず、自分や家族、自分の大切な人が戦争へ参加するとすれば、誰も安心してはいられないのではないのでしょうか。

^{しゃか}お釈迦さまの言葉の中に・・・

『^{もの}すべての者は暴力におびえ、^{おのれ}すべての者は死をおそれる。己が身をひきくらべて、殺してはならぬ。殺さしめてはならぬ。』

『^{いのち}すべての者は暴力におびえる。すべての生きものにとって生命は^{いと}愛しい。^{おのれ}己が身にひきくらべて、殺してはならぬ。殺さしめてはならぬ。』とあります。

第二次世界大戦以前、曹洞宗は戦争に参加してまいりました。

それについて、平成四年十一月二十日付で、過去に関与した侵略と植民地支配について反省とお詫びの言葉を発信しております。

お釈迦さまの言葉のとおり、曹洞宗は、まごころから『戦争をしない』という立場を主張いたします。